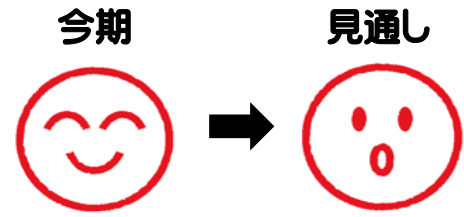


# 建設業

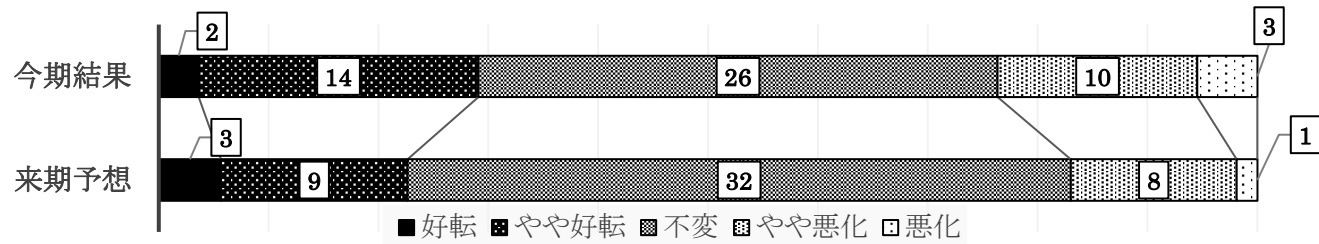


## ■丹波市の景況推移

前年と比べると状況的に大きな代わりは無いが、1月の雪災や夏から秋にかけての台風上陸もあり、修繕に関する受注は継続している状況にある。



## ■丹波市の景気動向



## 【今期の景況】

今期は台風被害の影響により、家屋関係の修復工事に関する受注が多く忙しいと回答される事業所が目立った。また、春先から比べ、公共工事も徐々に増えてきている様子である。一方、原材料の高騰と人材確保は依然として課題であり、年配者でも熟練の技術を持つ職人が欲しいとの声も挙がっている。

## 【来期の景況予想】

公共工事が出て競争が激しくなかなか受注できない。また、外注工事の受注も同様に価格競争が厳しくなり、原材料価格の高止まりも解消の見込みが無いことから、収益・資金繰りの悪化を懸念している。

## ■全国の景気動向

前回と比べやや改善。住宅リフォーム需要は引き続き好調。また、2020年まではインフラ関係を中心として工事案件が多い状況が続く見込みである。しかしながら、受注量が増えてきても、人材確保が難しいことや、受注しても請負単価と人件費のバランスが取れず利益の確保が難しくなっている。

## ■県下の景気動向

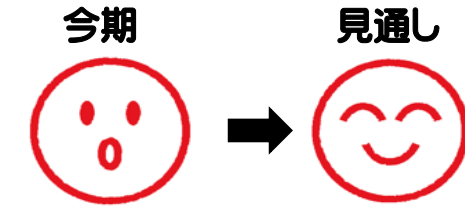
高速道路の開発や駅前開発に伴う工期の長い公共工事等の受注もでてきていることから、緩やかに景況が持ち直しをはじめている。一方、民間工事は受注が鈍く地域消費の伸びがみられない。また、受注がある地域においては人材不足の影響が依然として続いている。

## ■地区ごとの回答(前年同期比)

	柏原	氷上	青垣	春日	山南	市島	合計	構成比
良い (増加+やや増加)	2	5	2	3	3	1	16	29.6%
不変	1	9	3	7	1	5	26	48.1%
悪い (悪化+やや悪化)	0	3	3	1	4	1	12	22.2%
合計	3	17	8	11	8	7	54	100.0%

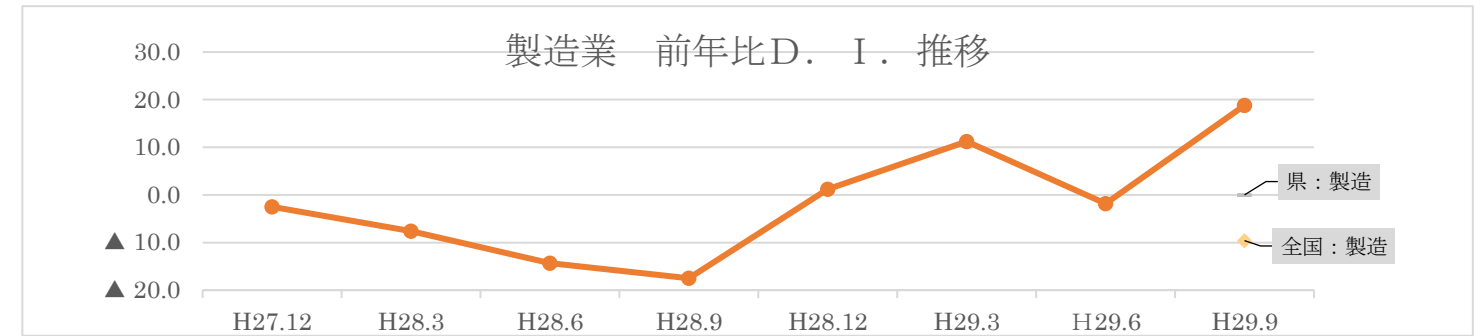
# 製造業

平成29年7月～9月期調査

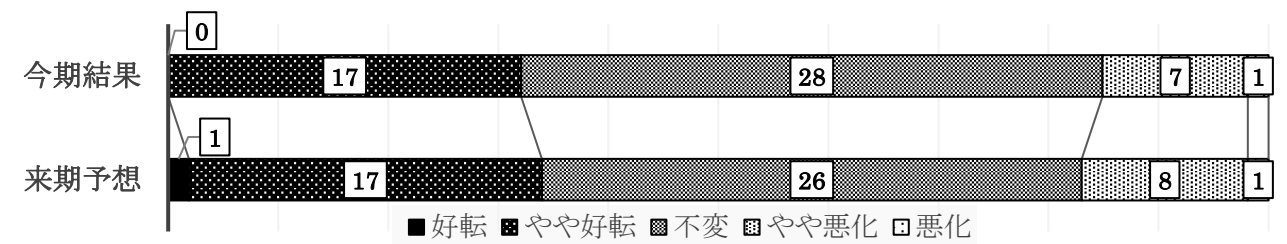


## ■丹波市の景況推移

都市部を中心とした建設ラッシュに伴い、建設関連の資材を取り扱う事業所では忙しくなりつつあるとの声もある。一方、人手不足は深刻で、技術を持つ職人さんを求める企業が目立った。



## ■丹波市の景気動向



## 【今期の景況】

建設関係が徐々に活発になりつつある影響もあり、機械部品製造業では引き合いもあり受注も増やしたが、十分な従業員が確保できず、売上増には繋がっていない。

## 【来期の景況予想】

業界全体として、従業員不足や技術を持った従業員を求める声が多く、今後の課題として人材育成や技術力を強化したいと回答する企業が目立った。季節的な要因として、行楽シーズン・年末を迎えるため、食品関連の製造業やそれに付随する業種では期待する動きが目立った。

## ■全国の景気動向

前回と比べわずかに改善。特に自動車部品製造業は堅調に推移し、材料費高騰も価格転嫁できている。一方、食料品、紡績関係は価格高騰の影響を受け経営の圧迫を受けている。また、9月は中間、本決算を迎え、各社在庫となる発注を抑える動きもあり、売上が低迷した。

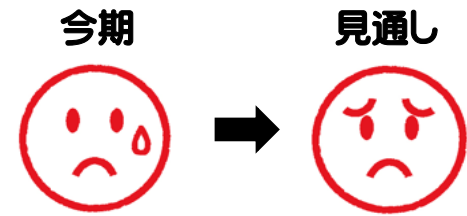
## ■県下の景気動向

機械部品製造活動はやや伸びているところもあるが、全体としては売り上げの減少が多くみられ、大きな伸びへの期待感は薄く、先行き感悪化を懸念するところが多い。人材不足は小規模事業者を中心に感じている。金融機関の貸し出し量は引き続き増加傾向にあり、機械等への設備投資の兆しが少しであるがみられる。

## ■地区ごとの回答(前年同期比)

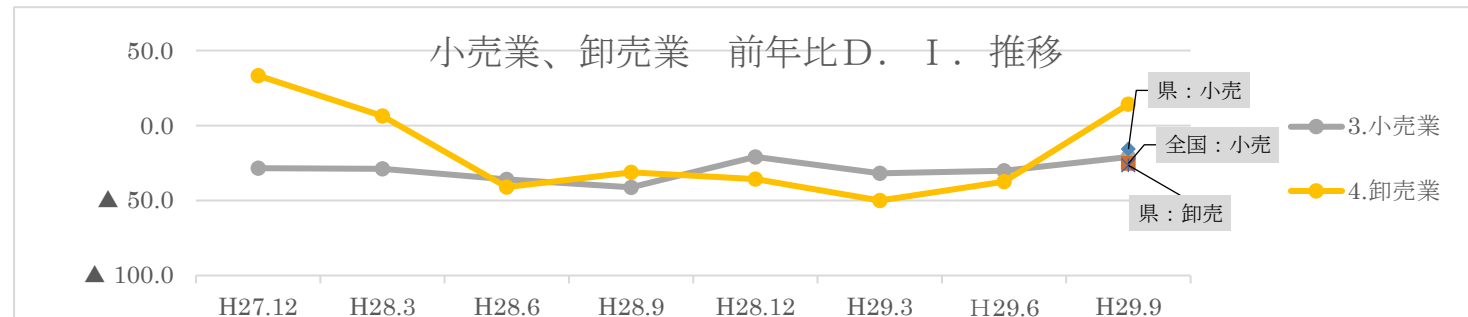
	柏原	氷上	青垣	春日	山南	市島	合計	構成比
良い (増加+やや増加)	2	4	1	3	6	4	20	37.7%
不変	2	8	5	3	4	1	23	43.4%
悪い (悪化+やや悪化)	2	1	1	0	5	1	10	18.9%
合計	6	13	7	6	15	6	53	100.0%

# 小売、卸売業

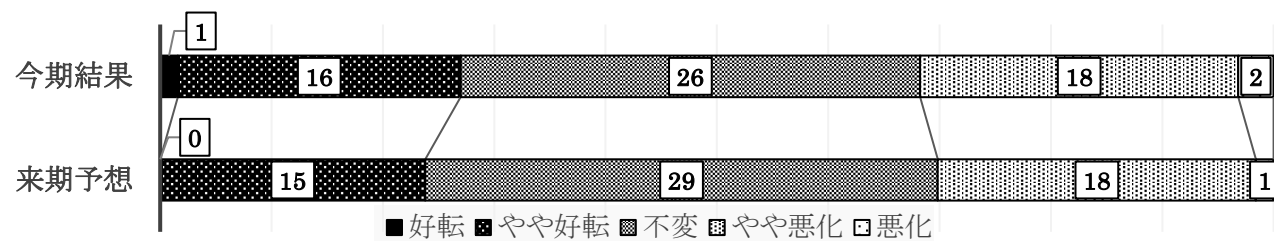


## ■丹波市の景況推移

事業を取り巻く環境がなかなか改善されず、厳しい状況が続いている。大手量販店への顧客の流出がなかなか止まらず、地元の小売店などは苦戦が続いている。



## ■丹波市の景況動向



## 【今期の景況】

生鮮品や植物を扱う小売業、卸売業からは台風の影響を受けたとの回答が多く、特に生花関連の事業所では、市場に出回る花の数が激減し、仕入れ価格が高止まり状態から更に高騰しているとの報告があった。そのため業種においても、仕入れ価格の高騰が続いており、収益を圧迫している状況である。

## 【来期の景況予想】

年末商戦に向けて個人消費が伸びることへの期待感を示している声もあるが、原材料の高騰が続くのではないかと不安の声が目立った。また、10月1日からは最低賃金の上昇もあり、人件費の増加を懸念している声も目立った。

## ■全国の景況動向

前月と比べやや悪化。天候不順により、葉物野菜をはじめとして生鮮食料品の価格が高騰し、消費者に買い控えの傾向が見られた。また、消費者の低価格化が進み、衣料品関係の落ち込みが特に大きい。

## ■県下の景況動向

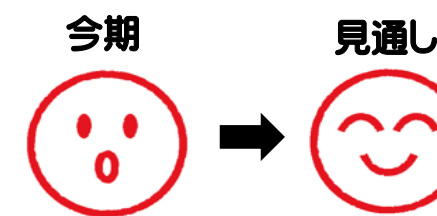
個人消費が依然として横ばい傾向に加え、天候不順の影響から売上高の伸びがにぶくなり、全体的に売り上げ減少しているところが多い。一部食品業界については、年末に向け良好に推移すると見込んでいるが、先行きも悪化すると見込んでいるところが目立っている。

## ■地区ごとの回答(前年同期比)

	柏原	氷上	青垣	春日	山南	市島	合計	構成比
良い (増加+やや増加)	3	6	0	2	1	0	12	18.8%
不変	1	10	3	8	5	2	29	45.3%
悪い (悪化+やや悪化)	6	8	1	3	4	1	23	35.9%
合計	10	24	4	13	10	3	64	100.0%

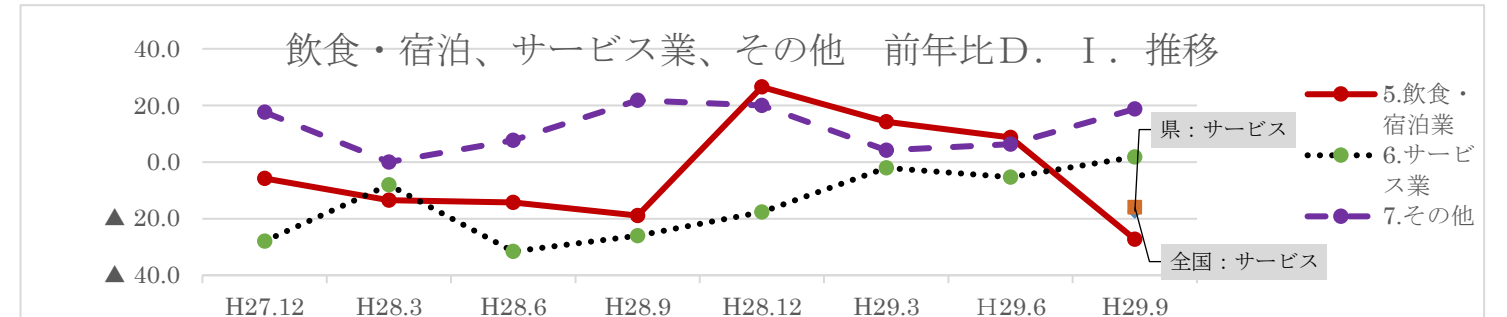
# 飲食・宿泊、サービス、その他業種

平成29年7月～9月期調査

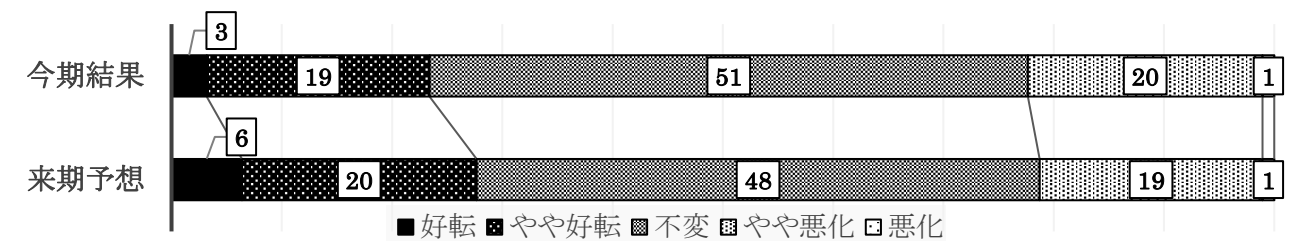


## ■丹波市の景況推移

台風の影響により、飲食・宿泊業関連では大きな打撃となった。好景気の実感もあまり無く、大企業に持っていかれているとの印象が強いように感じた。



## ■丹波市の景況動向



## 【今期の景況】

運送業では、台風の影響からか、夏から秋にかけて仕事が少ない時期があり、一部従業員に辞めてもらうこともあった。一方、民宿関連では田舎の風景に魅力を感じる都市部の方や外国人からの人気が増え始め、民泊サイトからのアクセスが徐々に増えてきているとの報告があった。

## 【来期の景況予想】

飲食関連、サービス関連共に秋の行楽シーズンや年末の忘年会シーズンなどに期待をする事業所が目立った。また、丹波市内では11/3よりぜんざいフェアが始まることもあり、昨年同様に市外からの来店客増加に期待する飲食店も多かった。

## ■全国の景況動向

前月と比べほぼ横ばい。企業の情報化投資が活発化していることに加え、次世代(IoTやAI)分野への投資が進んでいる。一方、宿泊業では、台風の影響でキャンセルが多数あり、宿泊客数も前年比2割減程度の地域もある。

## ■県下の景況動向

個人消費が横ばい傾向にあるために、売上高の伸びは前年維持を保持するのがやっとである。飲食業は、前年同期の売上に比べて下回るところが多い感じが見受けられた。プレミアムフライデーも効果がほとんどみられない。

## ■地区ごとの回答(前年同期比)

	柏原	氷上	青垣	春日	山南	市島	合計	構成比
良い (増加+やや増加)	9	2	5	4	4	1	25	26.6%
不変	12	14	2	6	5	3	42	44.7%
悪い (悪化+やや悪化)	8	6	3	2	6	2	27	28.7%
合計	29	22	10	12	15	6	94	100.0%